

第 3 学 年 社 会 科 の 実 践

1 単元名 「見直そう わたしたちの暮らし」

2 単元目標

○地域の商店での買い物の様子を調べて、地域の人々は品質や価格、環境などのことを考えて購入したり、販売の工夫をしたりしていることを理解し、自分もいろいろなことを考えた消費活動ができるようにするとともに、自分たちの地域は消費生活を通して広く国内の他地域や外国とも関わっていることに気づく。

○買い物調べや商店の見学などで積極的に取材活動に取り組んだり、調べたことを表やグラフ、地図などに効果的に表現したりしながら、買い物の仕方や売り手の工夫などを考える。

＜評価＞

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・スーパーマーケットや小売店の販売者の工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちもよりよい消費生活を営もうとする。	・消費者、販売者のそれぞれに工夫があり、それらは互いに関わり合っていることに気付く。 ・自分たちは消費活動を通して、広く国内外の地域とも関わっていることに気付く。	・買い物調べをしてわかったことを表やグラフにまとめ、それらから傾向を読みとることができる。 ・商店の販売の様子などについてわかったことを説明したりまとめたりすることができる。	・販売の仕事に携わっている人は、さまざまな工夫をしているとともに、それぞれの商店に良さがあることがわかる。 ・販売の仕事は他地域とも結びついており、自分たちの消費生活はそれらに支えられていることがわかる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究主題 「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの「切実な問題」を見とった授業づくり

①単元について

本単元は、子どもたちにとって身近な「買い物」を切り口に、自分たちを取り巻く消費生活について改めて知り、考え直し、消費者としての自分を意識しながら今後の消費活動を考えていくことをねらいとしている。子どもたちは普段からよく親と一緒に買い物に行っているようである。何がどこにあり、どのくらいの値段かも知っている。しかし、店の様子や店の人々の様子まで意識して見ているわけではない。また、並んでいる商品が、広く国内、国外から届けられており、物流を含め私たちの消費活動を支えている人々にまで考えをめぐらせているわけでもない。お金を払えばすぐに何でも物が手に入る環境にある子どもたちである。しかも、現代社会においては、直接店を通さない消費形態（宅配・通信販売・ネット販売など）も増え、実に多様化しており、今後ますますスピード化と利便性が加速していくと考えられる。本単元を学習していく中で、今まで何気なく通っていた店に、いろいろな工夫があり、人々が一生懸命働き、自分たちの消費活動を支えてくれたことに気づいてほしいと願う。また、商品が自分たちの手元に入るためには、店以外にもいろいろな人や国が関係していることにも気づいてほしい。その気づきを基に、今度は消費者としての自分を考え、「良い品物とは?」「良い買い物の仕方とは?」などについて3年生なりにめあてをもち、実際の生活に生かしていけるようにしたいと考える。そして、多様化する消費社会において、賢い消費者としての第一歩を踏み出していければと考える。

②単元の学習過程と子どもの見取りについて

買い物調べでは、自分の家庭において、ある期間内で、どこでどんな食品を買い、交通手段は何かを調べることにする。その結果をクラス全体で集計することにより、圧倒的にスーパーマーケットで買い物をしている家庭が多いことが予想される。それは、子どもたちにとって意外なことではなく、当たり前のことであるかもしれない。しかし、その理由は?と聞かれると果たして答えられるだろうか。子どもたちは買い物の主体ではなく、あくまでも保護者などに付き添うだけであり、なぜスーパーマーケットを選択しているのかについては表面上しかわからないだろう。こんなに多くの人がスーパーマーケットで買い物をするのかについて、改めて「なぜなのか ひみつをさぐろう」という方向に向かうようにしていきたい。これが第一の学習課題になる。どうやって調べるのかについても、子どもたちの意見をできるだけ生かしていきたい。また、家庭にも協力を仰ぎ、子どもたちが進んで取材活動できるようにしていきたい。新聞広告には、スーパーマーケットの情報が網羅されているので、大切な資料の一つとして扱っていく。この資料を読みとっていく中で、値段に端数が多いことや、タイムサービス、特売品、旬の食材紹介、ポイントサービスなどに気付くだろう。そして、ある程度ひみつや工夫がわかってきたところで、実際にお店を見学してみたいという思いを高めていくよ

うにする。はじめから見学ありきではなく、予想をたてて、それが本当なのか検証する形で見学に行かせたいと考える。ただ、見学する中で初めて知ったり、見つけたりしたことも重要であるので、それが分かる形でまとめていきたい。自分たちの目で実際に見たり聞いたりすることのよさをぜひ味わってほしい。見学にあたってはグループを編成する。限られた時間内であるので、分担して調べるようにする。その結果を伝え合ったり、わかったことを全体場で発表したりするなかで、子ども同士の関わり合いを深めていきたい。スーパーマーケットについての学習課題がひと段落したところで、はじめの買い物調べの結果にもどる。「こんなにスーパーマーケットはいろんな工夫をして、お客さんをたくさん集めているけれど、ほかの店で買い物をしている人もいたはず・・・。」という投げかけをもとに、ほかの店は大丈夫なのだろうか？でもなくなっていないのだから、きっとよさがあるはずであるし、それを探りたいという知的好奇心を引き出したい。これが第二の学習課題となると想定している。コンビニエンスストア、個人商店、宅配の3つに絞り、それぞれのよさを予想し、個人で調べ、その結果をグループで交流し合う。いろいろな子が調べた情報をもとに、「なるほど、そうだったのか。」や「自分だけでは気付かなかったよさがまだあったんだ。」という思いがもてることが、子どもたちのひびき合っている姿であるにとらえたい。

単元の終盤にさしかかったところで、消費者として主体的に行動できるために、もし自分たちが料理するために食材を買い物しに行くとしたらどうすればよいか？という第3の学習課題を設定していく。今までは親についていたり、頼まれたりして買い物をしている子どもたちであるが、今度は何を、どこで買うのか、自分たちで選択しなければならぬところに切実感が生まれると考える。それぞれの子どもたちが、自分なりの考えをもち、理由を述べながら買い物の計画を立てる姿を期待したい。その中で、よりよい買い物について考えを深められるようにしていく。授業の中で行うことであるので、ある程度の条件は整えることになるが、今までの学習過程の総仕上げとして、それぞれの店のよさを考慮した上で、商品の選び方（価格、品質表示、産地、新鮮さ、環境保護の視点）についても気をつけられるようにしていきたい。

4 単元指導計画（全21時間）

次	学習活動	評価規準
1	①オリエンテーション ・自分自身の買い物の経験、家族がどこで買い物をしているかを発表し合い、クラス全体ではどうなのかを知ろうとする意欲をもつ。 <u>買い物調べをしよう</u> ②自分の家庭の買い物について調べ、買った物や店、交通手段を記録する。 ③調べたことを表にし、棒グラフに表す。〈算数との関連〉 ④結果から分かることをまとめ、なぜクラスで多くの人がスーパーマーケットに買い物に行っているのかを調べようという学習課題を設定する。	【関】買い物の仕方について関心を持ち、進んで調べようとする。 【技・表】買い物調べカードに必要なことを記入し、クラス全体の数を集計し、表やグラフに表せる。
2	<u>店を調べに行こう</u> ⑤学習課題を解決するための方法を考える。家の人に聞いてくる。 ⑥新聞広告から、スーパーマーケットが行っている工夫を見つける。品物はどこからきているのかも調べる。 ⑦⑧学習課題に対する予想をたて、店の見学計画を立てる。 ・見学するときの視点を決める ・グループ編成 ・見学の約束 ・グループ内の役割分担 ・記録のしかた ・インタビューの仕方と練習 ⑨見学に行き、計画にしたがって調べる。 ⑩⑪⑬見学でわかったこと、わからないこと、もっと調べたいことをまとめる。	【技・表】広告から必要な情報を読み取り、調べることができる。 【思・判】スーパーマーケットに買い物客が多く集まるわけを予想できる。 【関】見学に関心を持ち、計画を立てることができる。 【技・表】視点にそって、店の様子を観察したり、質問したり、メモしたりする。 【関】友達と協力し、まとめることができる。 【技・表】わかったことをまとめる。 【思・判】店や店の人は、買い物客のことを考えて工夫したり、努力したりしていることに気付く。

	⑭店が工夫・努力していること、商品が他地域から来ていることなどをまとめる。 ⑮スーパーマーケット以外の店で買い物するよさを予想したり調べたりする。 ⑯スーパーマーケット以外の店などのよさについて考える。(本時) ⑰店を通さない買い物の仕方があることを知る。	【知・理】店で売られている商品が、国内外から運ばれてきたことを理解する。 【思・判】それぞれの店(宅配も含む)のよさを考え、いろいろな買い物の仕方があることについて考える。
3	上手な買い物をするために ⑱「グループで焼きそばを作るとしたら、どんなことに気をつけて買い物をすればよいのか」を考える。 ⑲商品表示を知ることや環境保護に配慮した買い方、店の選び方などについてまとめる。	【知・理】商品表示の意味を理解する。 【思・判】これまでの学習をもとにして、上手な買い物について自分なりに考える。
4	学習したことを生かして、買い物をしてみよう ⑳「グループで焼きそばを作る」という想定で、買い物をする計画を立てる。 21～23 買い物に行って、調理し、食べる。 (22、23 は総合の時間を活用)	【技・表】自分たちで考えたように工夫して買い物をすることができる。

5 本時について

(1) 本時目標

○コンビニエンスストア、個人商店、宅配の三つについて、それぞれで買い物をするときのよさについて考え、どれも消費者のことを考えて工夫・努力していることに気付く。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の支援・留意点 ★評価
1 前時までの学習をふりかえる。 ・スーパーは、いろいろな工夫をして、お客さんに来てもらおうと努力している。 コンビニエンスストア、個人商店、宅配で買い物をするよさについて考えよう。 2 三つのことについて、事前に調べてきた子の資料を提示し、グループで話し合う。 ・コンビニエンスストアの見取り図 ・個人商店でインタビューしたこと(種類や価格なども) ・宅配をやっている理由や便利なことを聞いた内容など グループで、三つのよさについて話し合ってみよう。 そして、自分の考えをまとめよう。 ＜コンビニ＞ ・家から近い。 ・少しだけ買いたいときに便利。 ・何時でもあいている。 ・お弁当とかおにぎりとか買える。 ・買い物のついでにお金をおろせたりはらえたりする。 ・宅配便の荷物をたのめる。	・教室掲示物を活用する。 ・本時の学習課題を提示する。 ・グループは生活班にする。進め役は班長。 ・事前に調べた内容をプリントし、できるだけ写真も用意し、具体的にわかるようにする。 ・各自、前時までにそれぞれのよさを自分なりに予想し、ワークシートにまとめておく。話し合った後に、予想をふりかえって、新しいことがわかったらメモさせるようにする。 ・指導者は各班をまわり、いろいろな子が話せるような雰囲気づくりに努める。 ・スーパーと比較しながら考えている子を認め、みんなに広げていく。

＜個人商店＞ ・家から近い。 ・店の人と知り合いだから安くしてくれる。 ・店の人とおしゃべりできるから楽しい。 ・注文にこたえてくれる。(魚をおろす、肉をグラムで) ＜宅配＞ ・店に行く手間がはぶける。 ・重いものを運ばなくてよい。 ・お年寄りにはいい。 ・赤ちゃんがいる人には便利。 ・カタログでゆっくり品物を選べる。 ・国産が多いから安心。 3 全体で考えを出し合い、よさについてまとめていく。 考えをたくさん出し合って、三つのよさについてまとめていこう。 4 わかったことをワークシートに書く。	★自分の予想をもとに、進んで話し合い、自分の考えを深めようとしている。【関・意】 ★それぞれの店（宅配も含む）のよさを考え、知ることができる。【知・理】 ・一斉形態に戻す。各グループから発言者が出るように、意図的指名も入れていく。 ・批判にならないよう、「よさ」に視点がいくように話し合わせる。 ・身近な経験、体験がある子にたくさん話させたい。 ・本時のまとめをする。
--	---

6 実践を終えて

① 単元構想と学習課題づくりの成果と課題

本単元では、児童が、今まで何気なく通っていたスーパーマーケットや、地域の商店について、いろいろな工夫があることや、人々が努力し、私たちの生活を支えてくれていることに気付いてほしいということを主なねらいとしていた。3年生の社会科として、予想をたてたり、詳しく調べたりすることは初めての経験でもあったので、児童が書き込みやすいワークシート等を用意し、負担感のないようにした。児童は、新聞広告や、生活経験などから、ある程度、スーパーマーケットにたくさん買い物客がくるひみつの予想を立てていたが、「値段が安いから。」といったイメージを持つことが多かった。種類の多さ、広さなども予想はできていた。しかし、それ以上にあまり予想の深まりはなかった。実際に見学に行ったのは、クラスの半分の人数で1店舗、合計2店舗である。2つの店で共通する工夫もあったが、その店独自の工夫点を聞いてくることもでき、視野が広がってとても良かった。特に、環境に優しい店をめざすという視点で、段ボールを極力減らしていることや、昔は食品専門の人はその仕事しかなかったのが、今はいろいろな仕事をできるようにしているなど、現地に行ってみないとよくわからないことを店側から教えていただき、児童は得意気に他の児童に報告していた。見学を終え、グループで分かったことをまとめる作業に入った。予想よりも項目がとて増え、分類することも一苦労だったが、児童は、こんなにたくさんのひみつがあったのだということを痛感したようだった。そして、第二の学習課題として、スーパーマーケット以外の店などで買うよさを設定した。学区の特徴として、個人商店やコンビニエンスストアがたくさんあるという点がある。児童が自分たちの足で、身近に調べられる環境である。買い物調べでは、スーパーマーケットではない店で買っている人もいるし、何かいいところがあるのではないのか？と教師側から投げかけた。生活経験の豊富な児童は、すぐによさをつぶやくことができたが、普段あまり個人商店に行かない児童らは、予想もつかないようであった。しかし、そのことをあえて学び合う機会とし、詳しくない児童も、調べたり友達の考えを聞いたりすることによって、自分なりに各店のよさを感じてほしいと考えた。また、時代の流れである宅配による買い物の増加にも目を向けてほしいと思い、宅配で買うよさについても考えていくようにした。そして、児童には興味深いコンビニエンスストアのよさについても考えていくようにした。これら三つを、スーパーマーケットのひみつとうまく比較しながら考えていくことにより、地域というさらに広い視点で自分たちの消費生活を考え、いろいろな工夫や努力があることを児童がより深く考えられるようにしていきたいと考えた。児童は、それぞれに自分の調べたい店（または宅配）について個人で調べた。コンビニエンスストアがとても多かったが、その他二つについて調べてあるものは、コピーをして全員に配布し、グループでの話し合いのときに資料として提示した。授業研究での本時課題「コンビニエンスストア・個人商店・宅配の三つのよさについて考える」は、スーパーとの比較対象として知ろうとする好奇心はわくだろうが、必然性のあるものであったということ、課題が残る。三つを考え、発表し合うことだけで精いっぱい

いになってしまい、児童同士がお互いに高め合える課題にはなっていなかったようだ。例えば、「もし、自分たちの住んでいる町で、スーパーマーケットしかなかったらどうなのだろうか?」という課題があったとする。すると、一見、大丈夫なようでも、それでは困るといった意見も出てくるだろう。すると、スーパーマーケットにはない他の店のよさを考えようとする必然性が生まれたのかもしれない。

三つのよさをまとめ終えたあと、第三の課題「もし、焼きそばを作るとしたら、どんなことに気を付けて買い物をすればよいのか。」に移る。今まで学習してきた各店のよさをふまえつつ、さらに、商品表示や環境保護に配慮した買い方、時と場に合った買い方などいろいろなことを総合的に判断して買い物の実践をすることになった。予算をたて、いつ、どこで、何を、どれくらい買うのか、集金額、役割分担、日程計画など、決めることは山ほどあったが、児童たちは熱心に計画をたて、買い物も自分たちの力で頑張っていた。保護者協力のもと、焼きそばを調理し、ふりかえりをして単元を終えることになった。児童の感想からは、この学習を通じてどのようなことを感じたのかを読み取ることができた。

本単元を通して、研究の成果としては、児童が実際に買い物を終え、振り返りをしたときに、「自分たちは物を買う立場(消費者)のことがまだ多いから、よく考えて買うことが大切。」という認識をもてたということである。地域の店の裏側にある工夫や努力を知ったからこそ、児童は気を付けて買い物をし、と同時に感謝の気持ちをもちながら、三年生なりに社会参加をしていく。今回は食品というとても身近なものに絞って考えていったのだが、消費する物はほかにもたくさんある。この学習を通し、児童は、数々の商品が自分たちの手元に入るまでに、どれだけの時間と人と手間がかかっているのかを少しでも想像できるようになったのではないかなと思う。

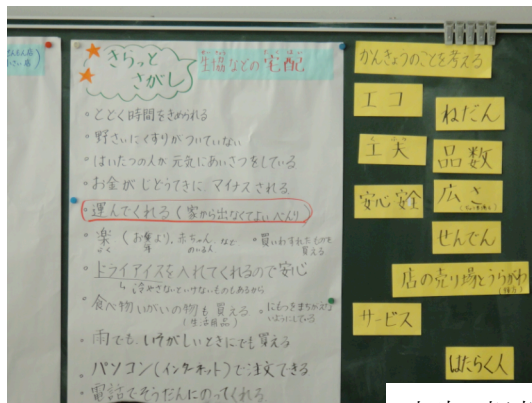
課題としては、単元を構想していく段階で、児童の予想を教師側が見取りきれておらず、学習課題設定に切実感が薄くなってしまった点である。児童一人一人の考えを掘り下げてしっかり把握することが十分でなかったためであろう。

②ひびき合いについて

第一の学習課題(スーパーマーケットのひみつ)では、グループごとに見学の結果を画用紙にまとめる活動を取り入れた。国語で「分類」することを学んだばかりだったので、できるだけ同じ種類のものは分けると、見やすいし分かりやすいということで、各班思考錯誤しながらまとめていった。その中で、児童は自分が気付かなかったスーパーの工夫に気付いている友達に接したり、分類を通して「あの工夫は、こういう仲間に分けられるのか。」ということに気付かされたりしていた。知りえた知識を共有化することで更に理解が深まったと思う。また、それを教室に掲示し、児童が他の班と見比べることにより、同じこと、違うこと、それぞれを判断する機会にもなった。第二の学習課題(スーパー以外の買い物でのよさ)では、先述の課題と違って、みんなで見学にいったわけではないので、自分の知識や経験、カタログなどの資料、現地取材をもとに、グループでよさについて話し合うことになる。宅配や個人商店については予想の段階で、そのよさを考えられない児童が多かったが、グループによる話し合いと一斉での話し合いにより、新しく分かったことを熱心にメモする児童の姿があった。

このように、グループ活動を取り入れながら、一人ひとりの児童が、自分以外の友達から刺激を受けつつ、学習を進められるようになってきたことは成果の一つかもしれないが、みんなで話し合って、よりよいものへ高めていくひびき合いまでには到達していなかった。それは、学習課題に切実なものが薄かったからであると考えられる。単元のねらいと、児童の問題意識、教師の思いを織り交ぜながら、児童が追求したいと思える学習課題を設定していくことの大切さを痛感している。

本時のグループによる話し合い



本時の板書

